

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ(2022年4月～)

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■ 建まちセミナーin 茨城のアフターセミナーに参加をして（甫立）

9月11日～12日に行われました建築とまちづくりセミナー2022in 茨城が開催され、バスなどの人数制限もありましたので、参加できなかった方のアフターセミナーという事で、講師をして頂きました方々をお願いをしまして、オンラインでのセミナーを1時間半の時間で開催を企画しました。セミナー報告がありますので、今回はそちらを転載します。

◆ 第1回 9月26日（月）「原発ゼロ社会の議論を始めよう」乾康代氏 32名参加

コーディネーターは千代崎一夫さん(東京支部)

○乾さんから30分程度のお話

○立教大学文学部教育学科教授 和田悠さんの報告 【10分程度】

□建まちセミナー東海村見学会の概要スライド解説（山下）

- ・村役場から見える第2原発・住宅地と近い原発。
- ・原研通り沿いの風景
- ・市街化調整区域の畑がシート+砂利で駐車場になっている現状

□全体コーディネーター（千代崎）

- ・「原発ゼロ社会の議論をはじめよう」というテーマで議論したい。
- ・原発から再生可能エネルギーに替えていく過程で様々な課題もあるように思う。

□乾さん30分プレゼン

- ・茨城大学に赴任して水戸に住む傍ら、原発を考える上で、村長選挙に立候補した。
- ・原発ゼロというのが立地地域から原発ゼロの絵がなかった。
- ・そのための議論を俎上に上げたい。
- ・東海村第1原発を再稼働させたいために防潮堤を作っている現状

1.東海村と世界の原発

- ・海外事例と比較し、原発まで住宅地が迫っている規制のない現状
- ・国際原子力の平和利用年表で時系列に説明

2.東海村の都市計画3大問題

- 1) 工業地域の分散配置
- 2) 住居地域は3つの原子力施設に囲われている
- 3) 居住の安全思想は完全欠如

3.劇的に安くなっている再生可能エネルギー

- ・導入経費は劇的に安くなっている
- ・買取価格も安くなっている

4.ドイツ・ルブミン村の脱原発戦略

- ・廃炉後、増えている人口
- ・廃炉後、新エネルギー工業団地（ノルドストリーム等）
- ・ルブミン村の奇跡　しかし核ゴミは残る

5.原発ゼロ社会の議論をはじめよう

- ・原発推進から原発廃炉まで、についての地元アンケート
- ・再エネ移行へのビジョンがない

ルブミン村はなぜ成功したのか　事業創出、事業者との共同、地域政策
現在の現状

- ・地方自治体独自の原子力政策を許さない
- ・原発依存
- ・ビジョンなき将来
- ・市民の無関心

東海村のまちづくり議論の目標

1. 安全な住環境
2. 環境政策の自治体へ
3. 村の未来を考える

<報告>

脱原発運動から始まった板橋市民運動（立教大学・和田氏）

- ・3.11以降脱原発運動
- ・子供の教育現場から放射能が基準値以上発生。
- ・こどもを被爆から守る会、板橋区結成
- ・サヨナラ原発@板橋ウォーク
- ・サヨナラ原発@板橋ネットワークへ
- ・デモ中心から政策提言へ。
- ・脱原発一点共闘から、課題別運動へ（様々な諸課題に対して、学童保育や教育、政治のマルチ
イシューの運動体へ）

→市民運動はシングルイシューが基本

- ・区長選挙（松島みちまさ氏）までつながったが、ビジョンとしてはまだ弱かったかなと。
- ・戦いはダブルスコアで負けてしまった。
- ・市民が政策を考え、それを市民がビジョンを作り、戦った。
- ・1回の選挙だけでは変わらない。
- ・区長だけではなく、区議も出していきたい。

◆第2回 10月3日(月)「都市デザインの本格的な議論をはじめませんか？」

藤本昌也氏 42名参加

はじめにコーディネーターの江国さんから「会神原アパート」視察の様子がプレゼンされ、藤本さんが解説をされました。

解決すべき課題

量から質への時代：外部空間の均質性を壊して、コミュニティの豊かさへ

羊羹みたいな標準化ではなく、集まって住むという意味、集合住宅の仮住まいからの脱皮＝接地性が必要→屋上テラス

パブリック→中庭→個人宅 2段階の中間領域

群像家（グループホーム）楨・大高ラインで考えたデザインの方向性。

外部内部の中間領域を計画した。

内部：スキップフロア、各住戸が1階2階3階で異なるプラン。

内部的空間と外部的空間との連続性（中間領域）を考えた。

外部空間は参加型で色々やってもらいたかったが、行政と住み手との協力があまりできていないのは残念。

Q：バリアフリー

当時の世相からもあまり考えてなかった。

Q：メンテナンス

低所得者が住んでいる公共住宅という考え方がある。なのでメンテに関しては最小限、あまりかけたくないという力学が働いている。

Q：せっかくの公営住宅なのにもう少し豊かにメンテナンスしてあげられればいいのに。

Q：まちづくりというと賑わい先行で、コミュニティという視点でのまちづくりはどうすれば？

A：底に住んでいる土地を持っている人の参加。住み手との協働、参加型が一番ではないか。

杉山昇さんの職場、としまち研の参加型とかが一番具現化しているのではないか。

民間でも公共でもない第3のセクターが推進していくべきではないか。

オランダのフローリングージ 中間セクターを地域に作るということではないか。

■中島朋子さん：会神原アパート見学のショック

優れた公共住宅であるのに、無惨な現況のメンテナンスにショックを受けた。空き家も多い。194戸中70戸が空き家で、クラックやサビが多い。自治会長に会ってきたが、築47年で老朽化しているのに手を入れていない問題、小学校まで歩いて30分、小学校の近くに県営住宅を作った問題。公共住宅政策も人気のない団地にお金がつぎ込めない現況。公営住宅は血税で作られており、最小限管理する、というルール。

- ・建物管理と住み手の協働は不可欠
- ・基町アパートの事例

よい空間なので様々な知恵を集めていいストックを育てていくようにしてほしい。

A：藤本：住民自治が重要だから、考えろではなく、中間的な人＝専門家が、入っていくことが不可欠ではないか。暮らしやすいまちづくりをどうすればよいかということについて、縦割りの行政がこれを阻害しているのではないか。

■坂庭国晴さんより公共住宅

長期空き家：長期空き家は募集しても1年入らない空き家

短期空き家：

公営住宅が負担になっている？ いえいえ、むしろ黒字化している都道府県もある。

公的住宅とUR団地の再建、再興（ルネッサンス）

A：藤本

行政のフラットな関係の構築、参考になるよい事例を作る。

事実現実を新建は伝える必要がある。頑張っている自治体・サボっている自治体

■暮らしづくり、ものづくり、まちづくり。

岡田昭人さん：住宅をどうしたらよいかという視点を持っている自治体が少ない。

今までの所有とか賃貸ということではない、住まいづくり。

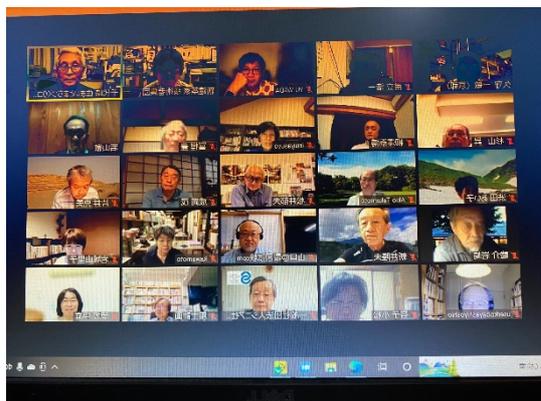
ゲーテッドコミュニティにしてはいけない。

■藤本さん：社会を維持していくための新しい枠組みを考えていかねばならない。

今までやってきた実績を組み立てて、新建が示すべき。

◆ 第3回 10月17日（月）19時～「危機に瀕する地球を生きる」岩崎駿介氏

※今後の予定です。お時間のある方は、参加をしてみてください。岩崎さんは、ご家族で、手作りの家づくりを進めています。その様子は、FACEBOOKで見ることができます。



■ 「バルセロナのスーパーブロック」～居住福祉と生活資本の構築(146)

岡本 祥浩

前回に引き続き、バルセロナで生活資本を考えます。バルセロナの都市再生事業として著名な「スーパーブロック」を取り上げます。この「スーパーブロック」事業を環境問題と居住民主主義の観点から捉え、「生活資本」として機能していることを確認します。

まず、環境問題の観点から捉えます。バルセロナも他の大都市同様、都心への交通集中による渋滞、騒音、排ガスによる大気汚染などに悩まされていました。大気汚染は居住者の健康に影響を与える程にひどくなりました。区画道路を埋め尽くした自動車は、道路から人を締め出し、居住者同士の触れ合いを奪いました。中心市街地の交通麻痺は、経済活動にも悪影響を与えました。予定通りにひと、もの、情報が集まらず、経済効率が低下し、人々にストレスを与えました。そこで、区画道路の階層を定め、体系的に自動車交通の流動を確保できるように一方通行などで通行制限を実施しました。その結果、スムーズな都心の通行状態を確保できました。人の移動は、前回紹介したように、メトロ、トラム、バス、タクシー、自転車などの多様な交通手段が効率よく整備されました。

次に居住民主主義の観点から捉えます。これは、居住を一人ひとりの観点で捉え直して創り上げることで、誰かの強権で都市を創造することではありません。居住民主主義の観点は、地下鉄やトラムの案内チラシにも現れています。人が歩くとどの程度の時間がかかるのかなどをバス、トラム、メトロなどの駅間距離などと共に示しています。一人ひとりが交通手段を選択できる材料を提供してくれています。こうして一人ひとりが考えて、公共交通機関を利用して都心を訪れることができます。

中心市街地のスーパーブロックの交差点は自動車から人に取り戻されました。1～2階は商店や事務所機能に利用されています。決して大きな店舗ではなく中小零細の地元資本の企業が中心になっています。交差点の広場には、ベンチや遊具などが設置され、老若男女、居住者も観光客もひと時を過ごせます。居住者の高齢者がベンチで談笑したり、親子連れが遊んでいたりする様子は微笑ましく感じられます。交差点の広場が、周りの建物から人を吸い寄せているように思えます。人と人が触れ合うこと、街の資源を人々に知らせる役割を果たしているようにも思えます。このスーパーブロックによる街の再生事業は行政からの押し付けではなく、居住者同士の十分な議論を通して実施されています。現場でワークショップを繰り返し実施したと、バルセロナ市の職員が語ってくれました。

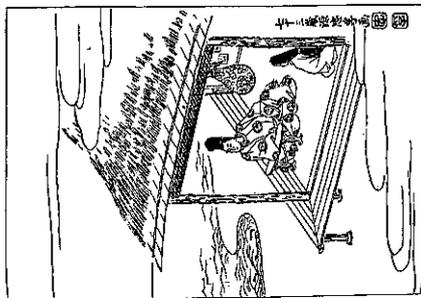
人が健康に暮らせる大気や環境を再生させ、人と人が触れ合い、街の資源を目の当たりにしたり人から知恵を聞けたりできる空間がバルセロナの中心市街地で再生されています。その再生に居住者一人ひとりが関わっていることに更に感激しました。居住者一人ひとりが関わったことは、環境条件が変わっても居住者一人ひとりの参加が適切な答えを探し出せる可能性を示しているように思えました。

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ⑫ 瑞穂区

藤原師長公謫居の地「嶋川稻荷」

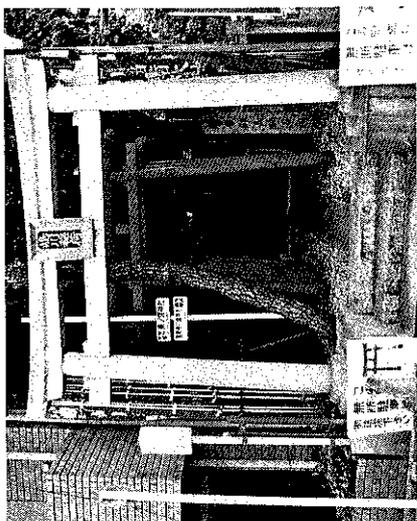
地下鉄妙音通駅のやや南に嶋川稻荷と呼ばれる小さな社があります。この境内の一角に藤原師長（もろなが）公謫居（たつきよ）の跡と記された石の碑が建てられています。



藤原師長公

前太政大臣藤原師長は1179年（治承3）平清盛に迫られ、この井戸田の地に住まわされることになりました。嶋川稻荷は師長の屋敷があった所とされています。

師長は琵琶の名手であり、井戸田に流されてからも琵琶を奏で、自分



藤原師長公謫居の地

をなくさめていました。この音色が周囲に鳴り響き、現在の妙音通という名はここからきているといわれます。

師長は、この地で里の長（おさ）、横江氏の娘と恋におちいり、1年後に罪が許されて京に戻るとき別れを



深く悲しみ、今の枇杷島町の西、土器野まで娘と連れ添って行きました。師長はこの娘を深く哀れに思い、守り本尊の薬師如来と白菊の琵琶を形見に与えたとも云われます。娘はこれに耐えきれず、「四つの緒の調べたえて三瀬川沈み果てぬ君に伝えよ」の一首を残して、かたわらの池に身を沈めたということから、この辺りを枇杷島と呼ぶようになりました。

（謫居一罰をうけてひきこもっていること。辺鄙の地に配流されていること。）

歴史探訪シリーズ ⑬ 瑞穂区

瑞穂公園に残る古代の遺跡

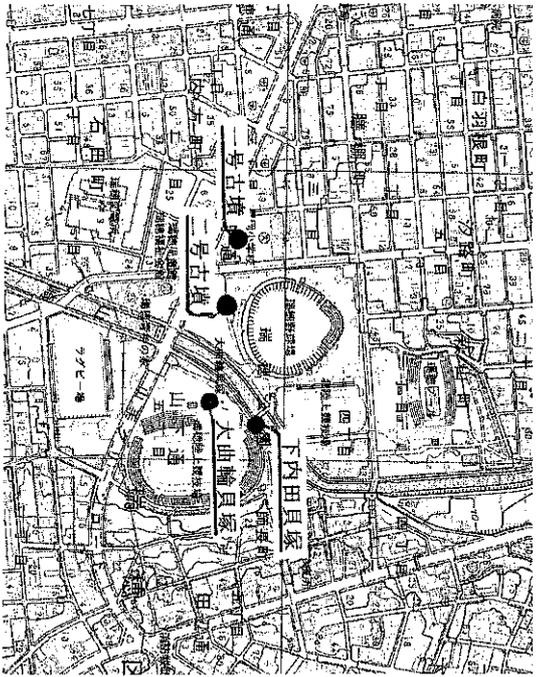
瑞穂陸上競技場やラケット場など

多くの運動施設がある瑞穂公園一帯は、また、古代の遺跡が多く残る所でもあります。この辺りは、八事方面からびる丘陵地の先端にあたり、かつては海面に面した所でもありました。



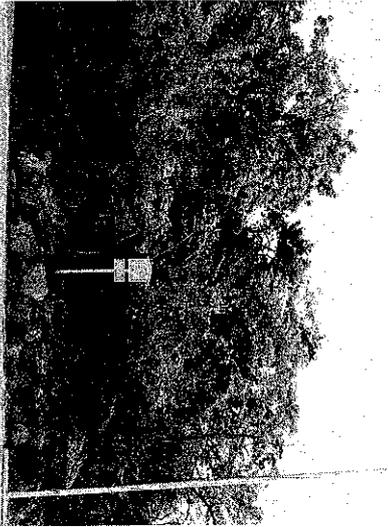
陸上競技場の西側に、大曲輪(おおまがら)貝塚の案内板があります。この遺跡は1939年に発見され、縄文時代前

期(紀元前4000年頃)のもので推定されています。その後1979年競技場の改築にともなって発掘調査をおこなったところ、住居跡や貝塚とともに、この時代の人骨が完全な形



で出土し、この実物は現在名古屋博物館に展示されています。

同じく、縄文時代の遺跡として下内田貝塚が発見されています。この遺跡は現在は山崎川の河川改修のため消滅してしまいましたが、住居跡、土器片などが出土しました。場所は山崎川にかかると瑞穂橋下辺りになります。



▲瑞穂古墳群のうち一号古墳

古墳も多く、瑞穂古墳群と名付けられています。一号古墳といわれるものは、豊岡小学校運動場に、二号古墳は野球場の南側にありますが、三号古墳と呼ばれていたものは野球場建設の時に失われてしまいました。この三つの古墳は、地元の人から三つ塚と呼ばれていました。

今では、いくつかの運動施設や宅地の開発で、過去を知ることができなくなっていますが、瑞穂区にはここを始め、多くの遺跡が発掘されています。海に近く、気候も温暖で当時の人にとって住みやすい所であったでしょう。

■ 新建愛知支部 2022年9月 支部幹事会だより

9月20日(火) 19:00~21:00(オンライン)

リモート参加者/入谷、奥野、河合、中森、福田、黒野、壬生、甫立

- (1) 茨城セミナーを9月11日(日)~12日(月)で開催しました。
 - (2) 茨城セミナーのアフターセミナーをオンラインで開催します。新建HPから、申込下さい。
 - (3) 中部ブロック会議を9月10日(土)石川県の休暇村能登千里浜を現地視察に行きました。
 - (4) 中部ブロックセミナーを10月22日(土)~24日(月)に休暇村能登千里浜にて行います。
 - (5) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
 - (6) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
 - (7) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
 - (8) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします。
- 今後の幹事会は、10月12日(水)、11月16日(水)、12月13日(火)午後7時と決めました。

■ オンラインでの全国幹事会を開催しました。(甫立報告)

10月8日(土)9時半から16時まで、三連休の初日に全国幹事会が開催され、30名前後の参加がありました。愛知からは、中森さん(WEB委員)と甫立(支部・ブロック委員長)が参加をしました。

開会挨拶を終え、昨年度の第33回大会を終え、コロナ禍での各支部から活動状況の報告を受けました。まだまだ大人数での集まりや企画の動きが鈍く感じましたが、これから少しずつ増えていくでしょう。久しぶりのリアルに集まった茨城セミナーと、今回は残念ながらオンラインに切り替えた小樽の木骨石造建築セミナーの報告があり、中部ブロックセミナーin石川の来年への延期も報告しました。WEB委員会の頑張りでの新しいホームページの報告もあり、外向きへの発信の大切さも感じました。オンライン研究集会後に、こども環境・環境と建築・マンションの研究会が行われていますが、新たに住宅研究会を立ち上げたいとの声もありました。組織財政では、高齢化による退会者が多数いて、活動資金の圧迫も心配されます。会議はオンラインで、集まりはリアル開催を前提に活動を前向きにしていこうと決めました。閉会の挨拶では、藤本さんから、会議のまとめの発言だけではなく、全国から集まっていたので、建築空間等についての発言もできる集まりが大切であることも感じました。リアルで集まる機会が待ち遠しいです。



■ 愛知支部事務局・財政からのお願い

新建会費『2022年後期分』の請求書をメールでお送りします。

2022年前期分が未納の方には、2022年後期分と合わせて請求させて頂いています。

※ 振込手数料は、各自でご負担をお願いします。 ご協力を宜しくお願い致します。